

○婦中地区タウンミーティング議事録（概要）

日 時：令和4年8月6日（土）

午前10時から午前11時30分

場 所：速星公民館

出席者：85人

テーマ1 富山市農業の振興施策について

<主な説明事項>

- 1 食料安定供給と農業の持続的な発展に向けて
- 2 富山市の農業の現状
- 3 担い手の確保・育成
- 4 農地集積
- 5 基盤整備
- 6 スマート農業事業
- 7 多面的機能支払制度
- 8 農林水産物プロモーション推進事業
- 9 婦中地域における（県営）農地整備事業
- 10 農村地域減災防災事業
- 11 小水力発電普及促進事業(婦中地域)
- 12 営農サポートセンター
- 13 新型コロナウイルス感染症対策

【農林水産部の説明に対する質問】

なし

テーマ2 ハザードマップについて

<主な説明事項>

- 1 ハザードマップとは
- 2 土砂災害ハザードマップについて
- 3 洪水ハザードマップについて
- 4 新たな取り組みについて

【建設部の説明に対する質問】

・ハザードマップは、井田川か神通川で、水があふれた時にどの辺まで来るよという資料だと思うのですが、水が堤防をオーバーフローして流れ出す場所はどこを想定して、どの高さまで来るとしているのかが、いつも書いてありません。書くとその住人に影響があるから駄目なのかわかりませんが、ご意見をいただければと思います。

(河川整備課長)

このハザードマップ自身は、河川毎に国・県などの河川管理者が、作成・公表している洪水浸水想定区域図を重ね合わせ、最も深い浸水深を表した図面になっております。堤防から水が溢れる場所の想定などにつきましては、国のホームページのなかに浸水ナビ(地点別浸水シミュレーション検索システム)というページがあり、このページでは、皆さんのお住いの地域に影響を与える河川の想定破堤点やその破堤点から氾濫した場合の浸水の広がりや深さなどの情報も提供されておりますので、ぜひそちらを確認していただければと思います。

・ハザードマップをわかりやすく説明していただき、避難できるように皆さん考えてくださいという話だったのですが、市ですべてができるわけではないのでその考えもわかりますが、万一の時というのは、パニックになったり判断ミスが多いので、訓練が一番大事だと思っています。だから、小中学校や高校もそうですし、企業の中でも訓練はしておられるのはそういう意味だと思います。やはり訓練することに

よって、体が自然にパニックにならないようにするということですが、そのようなことは考えてはもらっていないのでしょうか。

なぜこのようなことを言うのかというと、今のところ、各地域の防災訓練では知識の訓練が多く、または図上で行っており、本当に大事なのは全員が避難したかどうかということなのですが、それをおろそかにされているような気がします。これは富山市だけの話ではなく全国的な話で、例えば地震などで避難した時に、避難場所に家族や親戚、知人がいるかいないかを確認するのにとても時間がかかって、未だに不明だということを知ったこともあります。結局、大事なものは、安全に避難したかどうかを確認するような訓練が必要だと思うのですが、担当課ではないかもしれませんが、何か聞かせていただけたらと思います。

(建設部長)

担当は防災危機管理部になりますが、市では今年度と来年度で、避難所の開設訓練を行うこととなっており、もう始まっております。

(市長)

先般、速星小学校で第一次避難所の開設訓練を行いました。

(建設部長)

第一次避難所という最初に開ける避難所の開設訓練を、2年間かけてすべての第一次避難所で取り組むこととしております。その中で、どのように運営していくかということも検討されるものと考えております。

・当地区でも、避難場所の開設訓練を前に行ったことがあります、これも先進的にやっているなと思います。ただ、個人情報の保護という観点がありますが、誰が避難して誰が残っているのかを調べる資料もありません。避難所に集まったのでこれで大丈夫ですと、誰が判断するのでしょうか。そちらの地区は大丈夫かと聞かれても、大丈夫だよと言えません。そのような、一番基本的な大事なところをおざなりにして進んでいるような気がしています。

・富山空港周辺の堤防について気になっています。富山空港は神通川の中州の部分にあつて、昭和38年にでき上がり、58年にジェット化になって、(拡張され)長くなりました。ちょうど、熊野と、添島・鵜坂・上轡田の間に、神通川の本流がこちらの左岸に打ち上がっています。もし多くの雨が降ったとき、本流の水がどんどん流れて来て左側へ打ち付けるわけです。あの堤防は本当に大丈夫なのでしょうか。昭和58年から堤防が強化された覚えは一回もありません。防災マップを見ると、上轡田や塚原、神明、あるいは井田川で、激流の水が流れますと斜線が引いてあります。特に鵜坂は高い建物が一つもなく、鵜坂小学校だけが避難所です。自治振興会長に頑張ってください、ファボーレの駐車場に避難所を設けるといふことで、お願いしてあります。飛行場の上流にいつも水が回って左岸に打ち付けているという状況でありますので、あの堤防が本当に大丈夫なのか非常に不安です。

それと5m以上水がつくというのほどこから5mなののでしょうか。去年だったかと思いますが、電柱にここが3mですよとか、ここが何mか表示してもらえよう、要望に書きました。岩瀬、四方の辺りでは、津波の関係は全部出ています。電柱に何mか表示させるのを、このような低いところから順番に、一番簡単なもので何か検討していただけないでしょうか。

(市長)

富山空港の対面の神通川左岸に婦中地域がありまして、鵜坂そして有沢地区には、堤防の高さや幅が不足し、堤防の弱い場所があります。今、国土交通省では、重点防御築堤事業ということで、我々富山市民の長年の悲願であった、神通川右岸・左岸の堤防の補強事業を行っています。神通川の右岸については、富山市中心市街地を洪水氾濫から守るため、堤防の補強工事が進められており、ほぼ完成を見るという段階に来ました。皆さん、ご覧の通りだと思いますが、左岸については、鵜坂から有沢までの区間において、今、堤防の補強工事が進められています。

この事業については、富山市の重点事業に位置付けており、昨日、国土交通省や国会議員の方に要望活動をしてきております。その上流部分となりますと、蔵島や添島、萩島となってくるとと思いますが、この部分はこれからになり、引き続きの要

望という形になってくると思います。弱い箇所というのは、やはりお世話なさっている方々、地域の皆様がわかってらっしゃいますので、そういう声も受けてしっかりと要望していきたいと思います。

また、地域に住んでいて、ハザードマップに示される想定浸水深を現地に置き換えた時に、どこまでが浸水深3mか5mかよくわからないというのは、まさにその通りだと思います。皆さん方の地域にそういう表示（浸水深表示）があればいいなと私も思います。小学校や中学校など主要な場所にはその表示をすると、部長から説明がありましたが、電信柱でも何でもあるので、市が主体となってやるかどうかは別として、町内会に市も協力して取り組んでいけたらいいなと思っております。

いずれにしても、水害だけは1週間前や3日前、1日前、半日前からどうなることが予想されるかわかるわけですから、これをご家庭や近所で共有して、どのように避難する、誰がどういう人を連れて避難する、あるいは避難した場合やそのような危険な時に、会社に行っているお父さんお母さんにどうやって連絡を取るかなど、このようなことも含めて日頃から話し合いを、まずはご家庭で、そして地域でしていただければ幸いです。婦中にはそのような町内会や地域の力が残っていると思っておりますので、ぜひ地域へ帰られたら、そうした話し合いをしていただければと感じました。

【その他意見交換】

・農業について、富山市としてこの方向性で生産を高めていきたい、こういう特徴を出したい、という施策があると思いますが、それについてぜひ教えてください。

もう一点は、山の中で農業をしている知人がたくさんいるのですが、どちらかというと平地の農業に対する支援の方が多かったと聞きました。例えば、防災とも非常に関連してくるのではと思いますが、面積が非常に大きい中山間地に対して、特に力を入れていきたいこと、あるいは当面の課題としてお聞きできればうれしいです。

(農林水産部長)

方向性につきまして、先ほど説明した概略の通りであります。農業は第一次産業としては大事なもので、守っていかなければならないと思っております。地域性として、富山市・富山県は水田が多く、米の自給率の問題もありますが、水田から稼げる農業へ、野菜や果実、飼料用米など、そういったものに転換していく必要があります。また、国営事業として水橋で大々的な基盤整備を行っておりますが、担い手をどう維持していくか、そして新たに育てていくかということも含めた農業の基盤整備が必要だと考えております。

先ほども説明しました通り、そういったことだけでは担い手が集まってきません。市では、省力化、スマート農業等の実証実験にも関わり、持続可能な農業を目指していろいろなものに取り組んでいるわけですが、その中で、国の中山間地域の直接支払制度や水田の利活用の制度などを中心として、市でも実施していくということが基本になります。

例えば今、飼料の価格が高騰していますが、我が国では今回 788 億円の予備費を活用して、農業者の心が折れないように支援をしていくとしております。自給率を高める施策を進めながら、そういった支援も行うことを本市の政策に落としていくと、大きな農家さんには支援が届くかもしれませんが、届かない農家さんもいるかもしれません。国や県と連携しまして、農協さんや生産者さんなどの意見を聞きながら、そうした方をなるべくケアできるよう、何らかの支援策を考えていきたいと考えています。

(市長)

農業の方向性、富山市はどうするのかという話ですが、一番得意なのは米なので、この米をしっかりと売っていききたいということが第一だと思います。生産者や農協さん、農業関係者と協力しながら、得意である米を輸出も含めてどのように売り、日本人に食べてもらうか。コンビニなどいろいろな流通がありますが、ここに行政として、基礎自治体としてどう関わっていけばいいかというのは、部長の言う通り(農作物を)作りやすいほ場を作り、高収益作物、米以外にえごまや玉ねぎ、にんじん

などがありますが、そういったものを含めてどうやって作っていくかというのも一つの課題かと思います。一番は米だと思います。

それともう一つは、中山間地をどう守っていくかということでもあります。我々平地で暮らしている人間が毎日枕を高くして寝られるのは、中山間地でその農地や森林をしっかり維持していただいているからということ、皆さんご承知の通りであります。ですから、一昨日の豪雨のようなときに中山間地がしっかり守られないと、平場にまで、例えば土石流の水害が及ぶ、たくさんの流木が流れ出る、ということになるわけです。このような面からしても、中山間地域の森林や農地を守っていく、棚田を守っていくということは富山市民全体にとっても非常に大事なことでないと認識しています。もちろん農林水産部もそれを認識して中山間地対策をとっています。中山間地の直払制度を利用して農地の維持管理をしています。

富山市単独の事業としては、田からの排水調整をしていただくだけで、1haにつき13,000円の維持補助を出しております。ただ、中山間地域の方々には、田んぼをつぶしてリンゴ園にしたり、えごまや啓翁桜を作ってみたり、その他たくさんいろんなもの作ってみるけど、水田に対して補助はあるけど、畑に対して補助がない、何とかしないと中山間地は駄目になるということを言われます。このあたりはやはり県や国とも協力して、水田以外の作物に補助が十分行きわたることが、これからは必要ではないかと思います。

あと農協さんはシャクヤクを特産品にしている、中山間地ではかなりの農家の方が取り組んでおられまして、非常にすばらしい取り組みだと思っています。農協さんや生産者の方々が自ら協力して、そのようなものに力を入れていくということです。このようなところにも、売れる商品として拡大していくように、市としても支援をしていきたいと思っています。

・7月26日に、速星小学校で避難場所の開設訓練を初めてやっていただきました。
例えば、ここにおられるような市の職員（で、地区）の方が速星小学校に6人おられ、（避難所を）開設されるのを初めて見ました。ところが速星小学校は、ハザー

ドマップ上は1.5mから、下手すれば3mも水がつくところなのですが、資機材が1階に置いてありました。ということで、一応校長先生には2階に上げておいてほしいと伝えました。(訓練は) そのためにやっているのだと思いますし、初めてやったので変わっていくのだと思います。この(第一次避難所) 78箇所(での開設訓練を)、2年間かけられて各自治振興会単位でやられると思いますが、2年やって終わりではなくて、これを回していくことに意味があります。特に市の職員の方は、2年後というと、また違う人(が担当) だと思います。ぜひこの2年間だけではなくて、基本的には先ほど言われましたように、地域の避難訓練と合わせて一緒に開設訓練をやっていくような形で、また2年後(以降)も進めていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

・先ほど紹介されました基盤整備事業について、長沢地区では平成29年度から令和7年度まで、約40haの基盤整備に取り掛かっている最中であります。そのような中、私どもの(地区の) 基盤はほとんどが粘土質のため軟らかく、構造物を敷設するのに松杭をふせたりするなど、厄介な土壌ではありますが、米は非常に品質が(良く) おいしいです。

それに加えて遺跡の出るような地域であります。ですので、一応、遺跡の試掘調査を始めて、それから(遺跡が) 出ないと確認されなければ、基盤が整備されないわけです。ほとんど平らなようなところで田んぼを作付けしていたのですが、そういった中において遺跡が出てきまして、埋蔵文化財で本格調査もしなければいけないということで盛り土を作ったおかげで、法面が3m近く(になり)、中山間地で田んぼを作っているような状況になっております。この後も、再度試掘調査に入るところが出てきております。こういった厳しい状況の中で、早く基盤整備を進めていって、収益アップにつながるような圃場の確保に努めていく次第であります。そういったことで、私どもの実情の報告に代えさせていただきます。

※発言の一部を整理して掲載しています(広報課)